
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年8月20日号

◎2007年7月トウモロコシ市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年7月におけるトウモロコシ市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 トウモロコシは種面積は増加、一部産地では干ばつや水害が生長に影響

今年のトウモロコシは種面積は引き続き増加し、特に東北の主産地での増加が顕著であった。華北の黄河・淮河流域（黄淮地区）の山東省、河北省、河南省及び安徽省などのトウモロコシは種面積も、やや増加した。

7月の春トウモロコシは、北方の多くの地区で拔節期（主茎の節が急伸する時期）から抽雄期（雄穂が伸び出る時期）に入り、西南地区では乳熟期（開花・受粉後、実の中に澱粉その他栄養分を蓄え始める時期）から成熟期に至っている。夏トウモロコシは、華北の黄淮地区の多くで七葉期から拔節期にある。7月は、大部分の産地でトウモロコシの生長は全体に良好であった。ただし、淮河流域や西南地区では、一部地域で強い降水があり、農地によっては重大な洪水被害により、トウモロコシの生長に影響が出た。吉林省及び遼寧省の一部では、低温による冷害が発生し、トウモロコシの発育に若干の遅れが生じた。西北東部、内蒙古中東部、華北西部では干ばつが続き、トウモロコシの生長に不利な影響をもたらした。

2 上半期の輸出入量はともに増加、輸出省は東北地区に集中

海関統計によると、2007年6月のトウモロコシ輸出量は、前年同月比39.9倍の16.0万トンとなった。2007年上半期の累計輸出量は、前年同期比62.9%増の366.8万トンとなった。また、上半期の累計輸入量は、同1.2倍の6,772トンとなった。

中国のトウモロコシ輸出は、内蒙古自治区を含む東北4省区に集中している。主要輸出

相手国は韓国で、総輸出量の64.2%を占めている。その他重要な輸出相手国として日本、マレーシア、インドネシア及びイランなどがある。日本及びマレーシア向け輸出は70%以上の増加、韓国向けは50%以上の増加となった。

3 国内のトウモロコシ需給は急速に増加、在庫量はやや増加

2006/07年度（2006年10月～2007年9月）における中国のトウモロコシ供給量は、前年度比6.2%増と予測されている。総消費量は同4.4%増と見積もられ、うち飼料用消費は同1.6%増、食用消費は同6.7%減、工業用消費は同18.8%増とみられている。また、輸出量を加えた2006/07年度のトウモロコシ総需要量は、前年度比5.0%増と予測されている。トウモロコシの新たな供給増加量が、当年度の需要量をやや上回るため、在庫量は前年度よりも増加する見込みである。在庫／消費比は、前年度と比較して1.9ポイント上昇した。ただし、工業用消費量の増加の勢いが強く、国内のトウモロコシ需給は逼迫に向かっている。

4 2007/08年度の世界のトウモロコシ生産・需要は大幅増、在庫量はやや増加

米国農務省（USDA）の予測によると、2006/07年度における世界のトウモロコシ総生産量は、前年度比0.7%増の7.01億トンとされる。総消費量は2.7%増の7.23億トンとみられている。消費の増加ペースが生産の増加ペースを上回ることから、世界のトウモロコシ在庫量は、1.01億トンまで減少し、在庫／消費比は19.3%と予測されている。2006/07年度の世界のトウモロコシ貿易量はやや増加し、輸入は5.7%増、輸出は5.6%増と見込まれている。

2007/08年度の世界のトウモロコシ生産量は、前年度比10.9%と大幅に増加し、新記録ともなる7.77億トンと予測されている。消費量の増加も引き続き加速し、同6.5%増の7.70億トンに達するものとみられている。うち飼料用消費は2.1%増の4.84億トンで、消費量の62.9%を占めている。世界のトウモロコシ期末在庫量は、1.08億トンまで増加し、在庫／消費比は14.0%と見込まれている。貿易面では、米国内の需要増加と輸出削減により、世界のトウモロコシ貿易量はやや減少するとみられている。世界のトウモロコシ輸出量は前年度比3.5%減の8,275万トン、うち米国産は4.8%減の5,080万トンと見積もられている。世界の輸出量は同1.8%減の8,233万トンで、主要輸入国は日本が1,610万トンで第1位、メキシコが比較的増加し、1,020万トンで第2位となる一方、韓国は910万トンで第3位に退くと予測されている。

5 国内のトウモロコシ市場価格の上昇幅は緩やか、国際価格は大幅下落

7月の中国のトウモロコシ価格は引き続き上昇したが、上昇幅は緩慢であった。7月中旬の生産地における平均卸売価格は1トン当たり1,516円で、前月比1.4%高、前年同月比14.7%高となった。うち東北地区では前月比3.2%高・前年同月比16.9%高、華北の黄淮

地区では前月比1.1%高・前年同月比14.7%高となった。消費地における平均卸売価格は同1,744円で、前月比0.9%高・前年同月比16.3%高となった。

USDAによると、米国のトウモロコシ生産量は引き続き増加し、今年は前年比21.9%増の3.26億トンに達するものと予測され、このことがトウモロコシの国際価格の大幅な下落を招き、価格は年内最低の水準となった。7月における米国メキシコ湾の2号黄色トウモロコシの平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり1,125円で、前月比10.8%安・前年同月比21.9%高となった。また、シカゴの先物価格は同1,021円で、前月比11.3%安・前年同期比20.7%高となった。下半期の価格趨勢は、気候条件などによって変動する上、トウモロコシの収穫期の訪れによって、国際市場に対する供給が強まり、トウモロコシ価格は下落圧力に直面することとなる。

国際トウモロコシ価格の大幅下落に伴い、トウモロコシの内外価格差は縮小に転じた。広州市の黄埔港では、7月の米国産トウモロコシの通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、同時期の国産トウモロコシの国内港価格よりも1トン当たり496元高かったものの、内外価格差は前月に比べ同65元縮小した。